

## Gard Alert

### パナマ運河 - 通航時のデッキ冷却

---

こちらは、英文記事「[Panama Canal - deck cooling during transit](#)」（2016年1月26日付）の和訳です。

引火点 18℃未満の貨物を積載してパナマ運河を通航するタンカー船は、圧力安全弁が自動作動しないようにメインデッキを水で冷却しなければなりません。

2016年1月18日から、別途通知のあるまでの期間、パナマ運河庁（Panama Canal Authority [ACP]）は、パナマ運河通航時において、タンカー船の圧力安全弁が自動的に作動するのを防ぐための特別な手順を導入しました。これは、運河の運営とその利用者の安全性を強化し、通航スケジュールの乱れを少なくするための措置です。



ACP の [Advisory to Shipping No. A-02-2016](#) の内容は以下の通りです。

- 引火点 18℃未満の貨物を積載して通航する原油タンカー、プロダクトキャリアおよびケミカルタンカーは、通航時に圧力安全弁が自動作動しないように、デッキ上のスプリンクラーシステムまたはその他の利用可能な方法でメインデッキを冷却することが義務付けられます。
- メインデッキの冷却作業は、ガトゥン湖またはゲイラードカットを通航中の 10:00～16:00 の時間帯に行わなければなりません。ただし、船舶が閘門またはその付近を通航する際と、運河の甲板作業員が乗船する際には冷却作業は停止しなければなりません。
- 冷却作業を行っても圧力安全弁が自動的に作動することを防げない場合には、手動で圧力安全弁を開放して圧力を低下させることが必要となる可能性があります。手動で圧力安全弁を開放する前に、船長は以下を確認しなければなりません。
- ACP の当直運河港長に対して乗船しているパイロットから状況が既に報告されていること。パイロットが乗船していない場合は、フラメンコまたはクリストバルの運河信号所に通知済みであること。
- ACP の係員がガスを浴びないように必要なあらゆる措置が講じられていること。
- 船上および付近の発火源の安全が確保されていること。

パナマにおける Gard のコレスポンデント C. Fernie & Co. S.A.が運河港長に確認したところ、今回の措置を導入する主な理由が、閘門の ACP の係員や本船上のラインハンドラーを保護することにあることが分かりました。過去において、タンカー船に乗り込んだ ACP の係員が安全弁から発生したガスによって健康損害を被るといった事故があったようです。この時期にこうした決定がなされた背景には、現在、パナマが乾季入りし、気温が高いことがあります。

メンバーの皆様におかれましては、上記にご注意いただくとともに、ACP が要求する手順を実施する前に以下のリスク要素について慎重に対処・対応するようにしてください。

- 水でデッキを冷却する際には、デッキがどの程度汚れているか、そして冷却水を船外に排出した場合に汚染につながるリスクはどの程度かを考慮してください。冷却作業に水射機（高圧ジェット）を用いる際には注意が必要です。
- 手動で弁を開放してタンク圧を下げる作業には、船員の健康・安全を損なうリスクが伴います。弁の開放前に、発火源となり得る箇所をすべて特定し、安全確保するようにしてください。特に懸念されるのは、ガス・混合気を上方に高速噴流で押し出すように設計された急速排気弁を手動で操作する場合です。この急速排気弁はデッキや通路付近に設置されていることが多く、上昇速度が伴わずにガスを手動で排出した場合、デッキの作業者が被害を受けるリスクが高まります。

ほとんどの海事規則は、貨物を区分する基準として引火点 60℃を採用しています。なぜ今回の措置において ACP が引火点の上限を 18℃に設定したのか、その理由は本稿執筆現在、まだ分かっていません。

本稿は、Gard のコレスポンデント C. Fernie & Co. S.A（バルボア、パナマ）からの情報に基づいて作成したものです。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。